

Title	新産業としての構想
Author(s)	桜井, 孝幸
Citation	年次学術大会講演要旨集, 14: 167-172
Issue Date	1999-11-01
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/5727">http://hdl.handle.net/10119/5727</a>
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○桜井孝幸（ジーテック）

日本の経済政策に環境と調和した循環型経済社会をめざす新経済ビジョンが盛り込まれた。歴史的な大きな転換であり従来の経済構造を見直しながら新しいシステムを確立することになる。このシステムは、既存の処理システムを否定するのではなく、その不備不完全を補完し、より効果的に問題の解決につながり、社会的に認知される事業を構想している。

現在廃自動車の解体事業者は、零細事業者が多く、技術的に規制に対応するのが困難になりつつあり、経営的にも解体費用の低迷、処分費の高騰、不安定な古鉄価格等により多くの事業者は隘路を感じている。有価物を取り終えた積置きされた廃車の山、後継者も無く廃業を口にする多くの解体事業者、問題解決の為、当社は永年調査研究を行って来た。

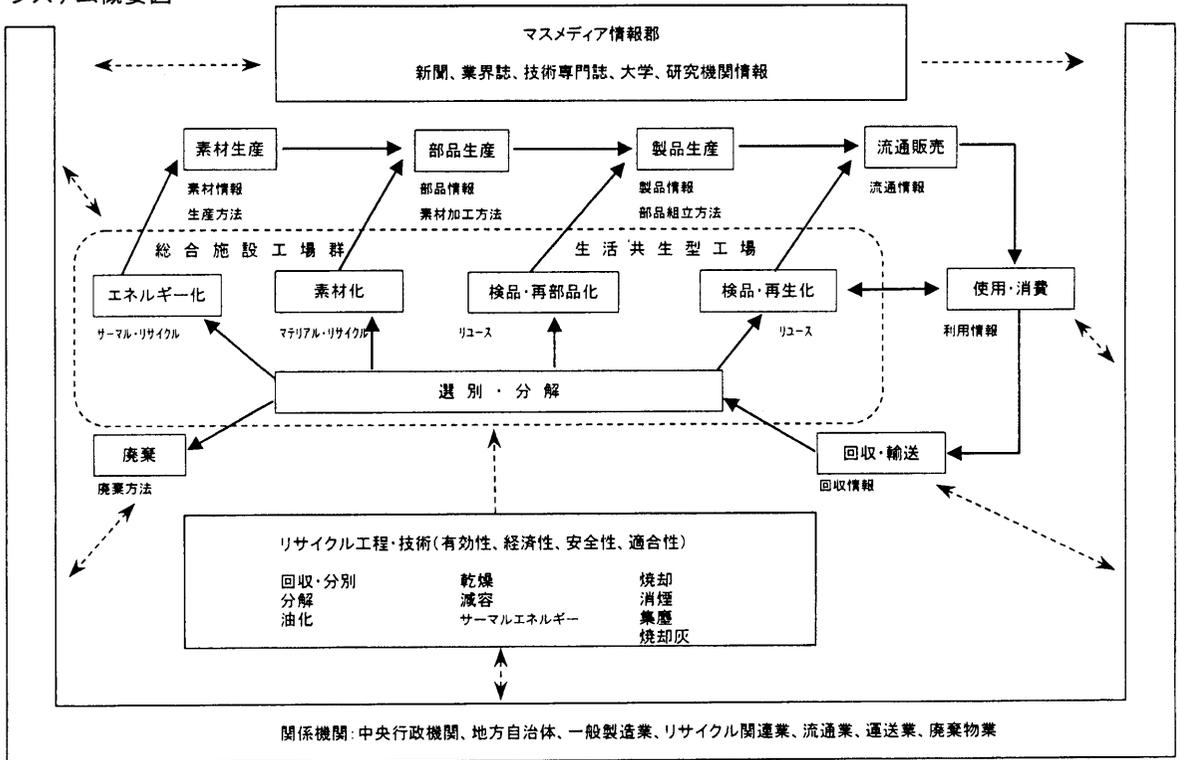
その調査研究の成果から新事業として会社を設立、東京都から創造法の認定、神奈川異業種での循環系産業開発研究会の設立、山形県最上広域での実証プラント構想の提案、かずさに於ける地域資源リサイクル研究会を行いグループ企業の事業拡大、地域に於ける新規事業の創出と雇用をつくり地域経済の役割を構想している。

### 当社が主として提案した研究と構想

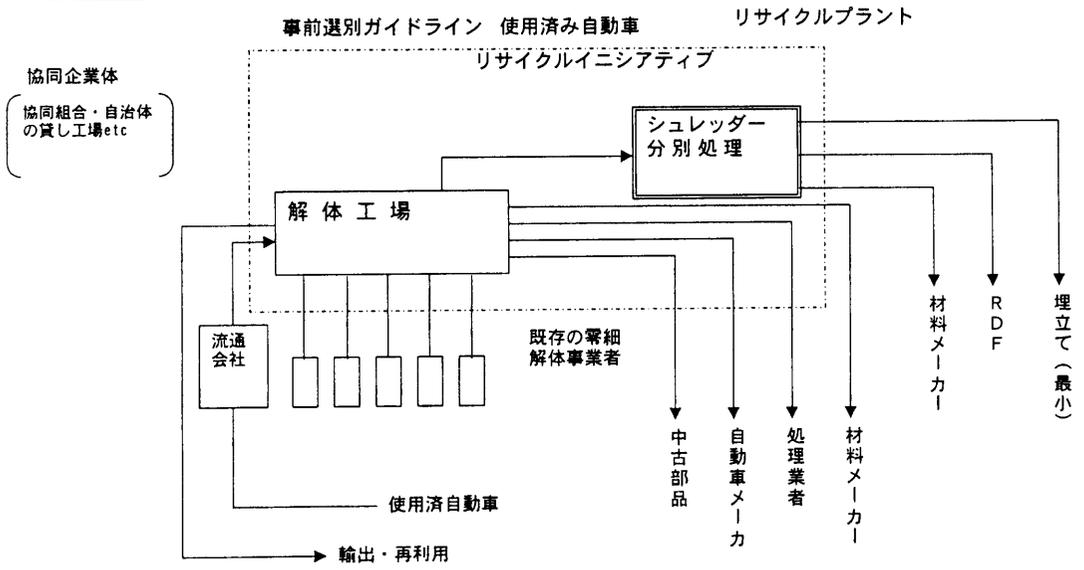
- オールマテリアルサイクルプラント構想……1992
- 自動車と家電の製品再製マテリアル回収総合プラント……1994
- 地域と一体化したプラント構想……1995
- 最上広域に於けるリサイクル総合プラント構想……1996
- 自動車流通に於ける保証金（デポジット）制度……1996
- 「新たな再資源システムの為に」……1997
- ゼロエミッション社会を目指す（資源循環型社会）……1997
- 循環経済研究（意義と構築）……1998
- NPO参加での循環経済社会システムの提案……1998
- 環境リサイクルに於けるデポジット制度の意義……1999

# 1. 情報システムの構想

システム概要図



# 2. 環境・地域と共用したリサイクルプラント構想



### **3. 地域解決型（広域型）の自動車解体工場の提案**

#### 1. 地域解決型の自動車解体工場の目的、理念

##### 1) 発生地域による責任処分

日本に於ける廃車となる自動車の台数は年間約450万台と言われているが、この為の解体工場を特定の県又は特定の地域に集中配置する事なく基本的に発生した地域で責任をもって処理し、例えば東京の廃車を東北地方の解体工場では処理するものではない。一つの県を3～4の広域地域に分け、それぞれに解体工場を置く。ここで発生する廃車は、どこかの知らない会社が作り出す産業廃棄物と異なり、地域住民一人一人が恣意的に生み出したものであるため、発生地域で処理するのが当然のことである。

##### 2) 地域の雇用拡大

現有の解体事業者の人材の雇用を確保する事はもとより、従来は無造作に無回収のままシュレダーダストとして廃棄されていた部品も解体分別することによる作業量の増加、又他地域に送り出して依存していた解体作業を、地域内で処理することによる作業量の増加、等により地域の雇用拡大を図る。

##### 3) 環境、地域との共生、調和

解体工場は今でも日本全国に必ずしも環境、地域と共生、調和しているとは言えない状況で存在しているものが多いが、これを自動車製造工場と同等のイメージのものとし、解体工場が設置される地域の環境、住民の生活環境を損なうものであってはならず、社会的に認知されたものでなければならない。

##### 4) 将来にわたって受け入れられる解体工場

将来の技術開発を想定しこれに充分対応できる工場とし、現在の解体工程にのみ立脚したものではない。

#### 2. 本解体工場の形態と運営

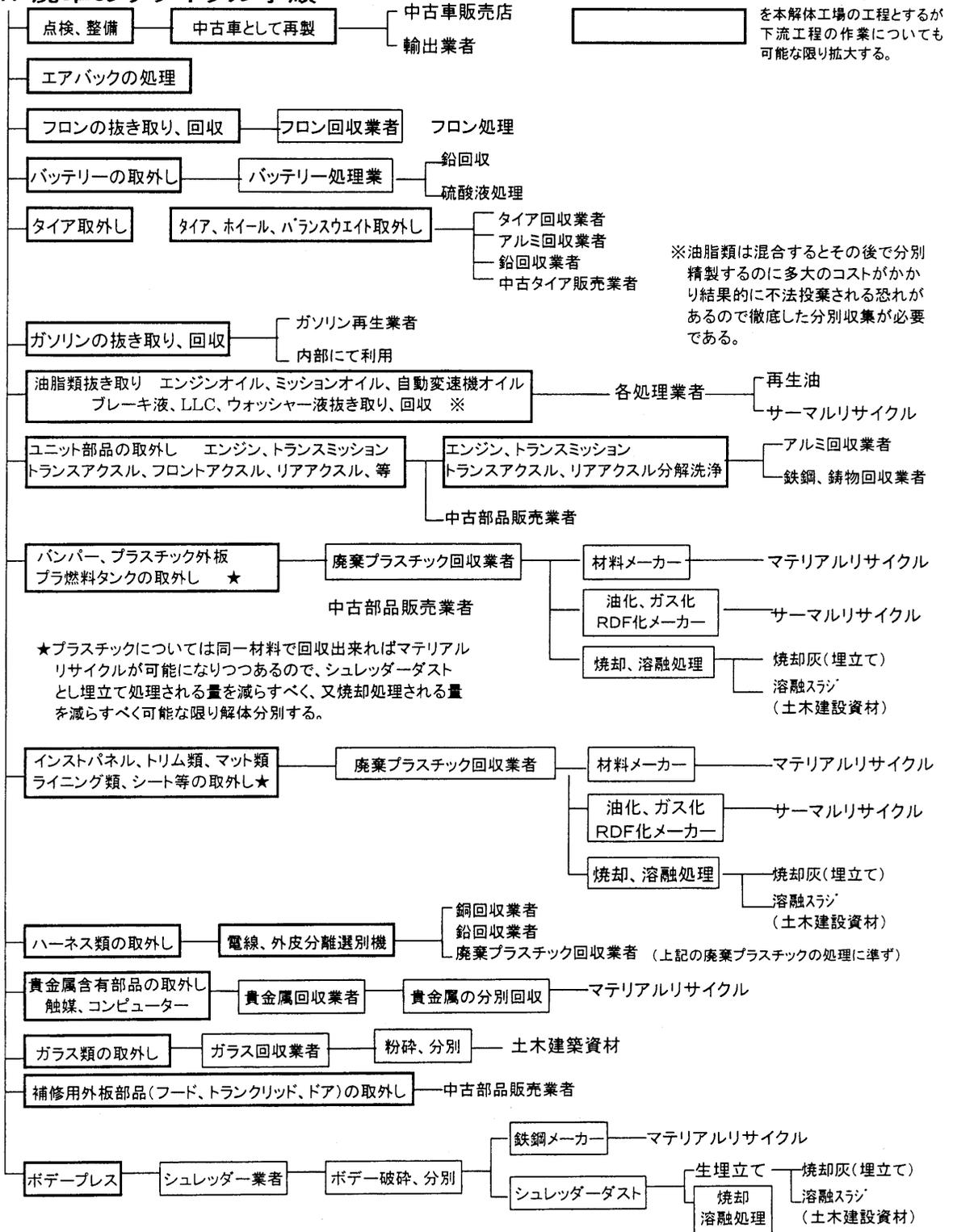
1) 前述のように本解体工場は環境、地域との調和、共生を図り自動車製造工場と同等のイメージのものであり、又広域地域にまたがるものである為、その建設には多大の設備投資が必要である。又運営においても、十分な管理が必要であることから地域公社の貸工場方式を採用し、経営は間接指導をコンサルタント会社により行い、生産性の向上、サービスの向上を計り、責任のある会社をつくる必要がある。

2) 多大の設備投資で出来た近代的な工場であっても管理運営しただけでは全く初期の目的をはたせないことになりかねないので、本工場の経営は協同組合化し、情報公開が可能なオープンな体質にする。ここで働く従業員は現在解体業に従事する人達を前提とする。当社はこの工場へソフト、ハードの両面で公示された適性な利益で技術指導するものである。

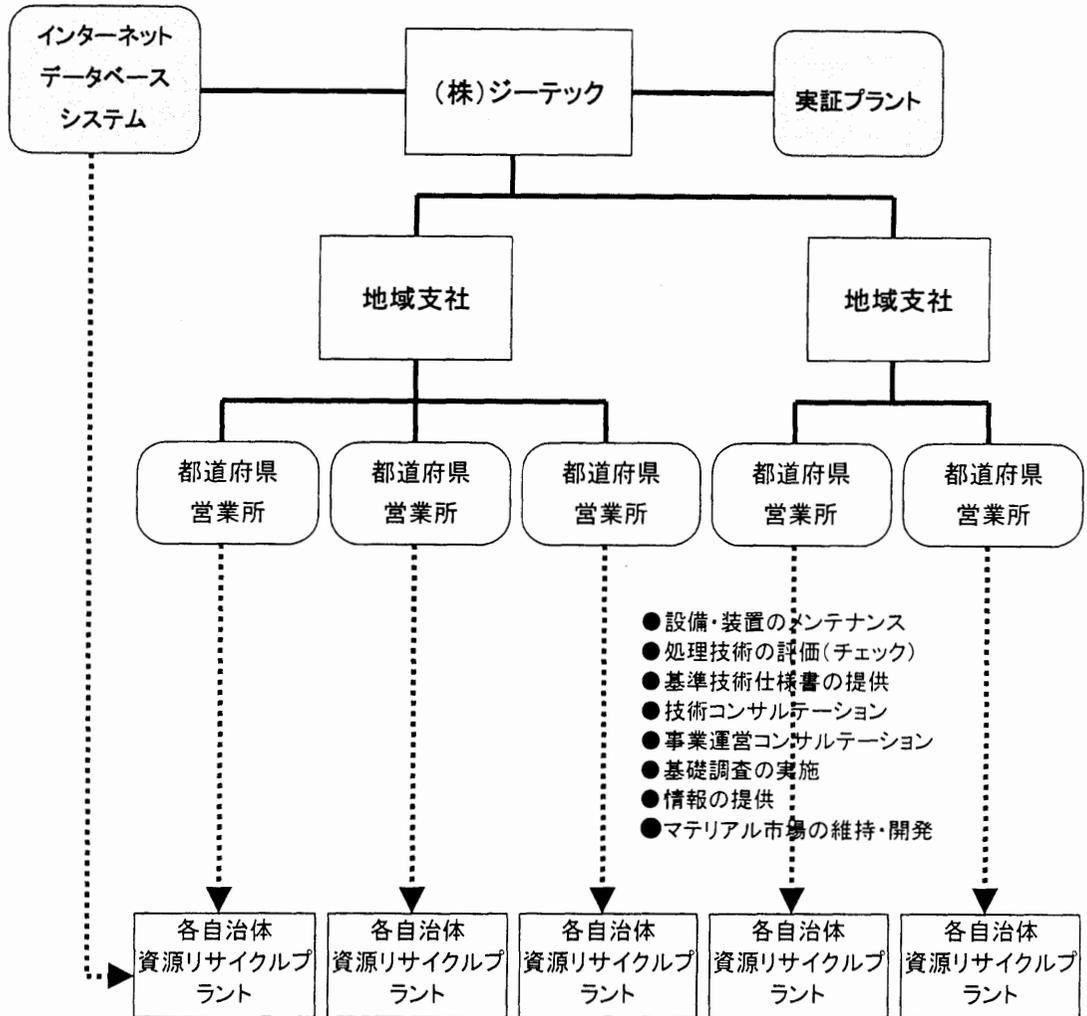
##### 3) 解体工場の立地条件

解体される車が自走、又は被積載で多数集積すること、及び解体された部品、材料、最終処理品の搬出を考えると、又、その地域の住民の理解を容易に得るためにもその広域地域内の工業団地が望ましい。

#### 4. 廃車のリサイクル手順



## 5. コンサルタント会社の役割構想

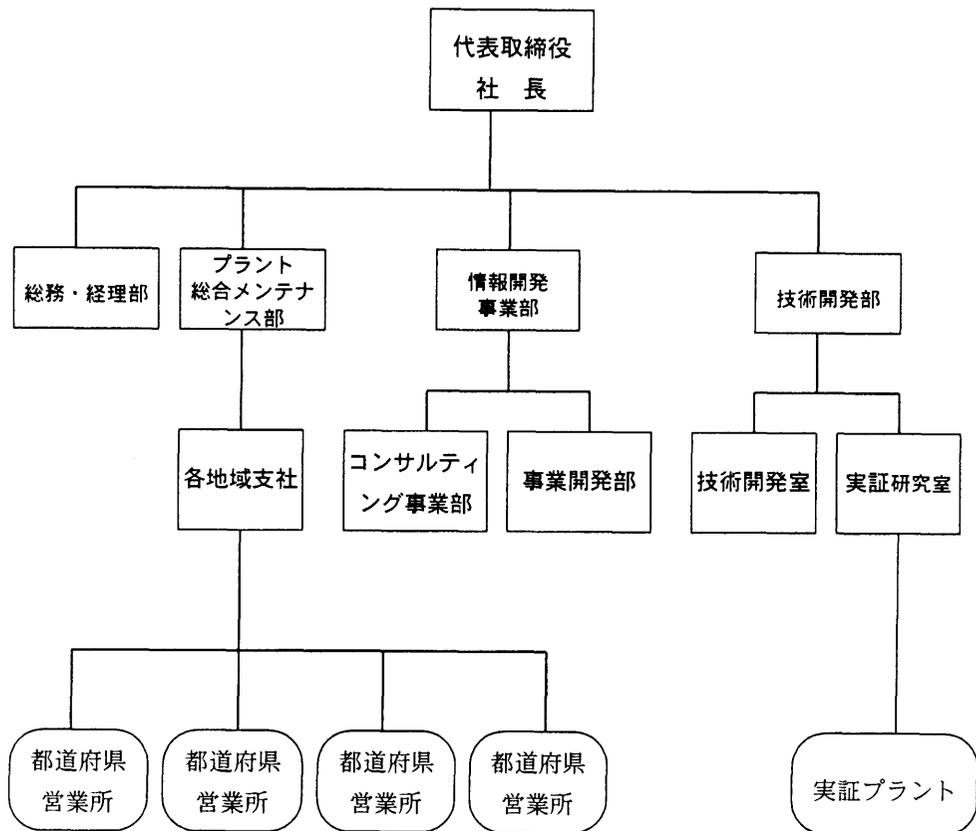


### 【主な役割】

- 資源リサイクルプラントの設備・装置のメンテナンス業務
- 基礎技術の応用化
- 革新的リサイクル技術の実証評価
- 基準技術仕様書の作成
- リサイクルプラントのチェック・指導
- リサイクル関連技術情報の収集・整理・分析・加工
- 基礎調査の実施
- 情報の提供
- リサイクルマテリアル市場の維持・開発

『(株)ジーテック』の基本的な役割は、この資源リサイクルシステムが良好に機能するために総合的に指導・支援する事である。  
 従って、技術的な指導や情報提供とともに、「リサイクル・プラント」の経済性の側面での支援として、マテリアル市場の安定を目的とした「マテリアル取引市場」へのコミットメントも行ってゆく。

## 6. (株) ジーテックの組織体制



### 後述

循環経済社会を創造する新産業として位置づけする前記のシステムは、かならずしも自由経済下に於ける事業としては単独的であり法的に問題視される恐れがあるが、地球環境や地域環境に配慮し、多くの企業の参加に高齢者の雇用と消費者の利益を生じさせる事業として評価され、御理解頂けるものとして発表することに致します。